

「ふるさとを愛し 夢を育む 賢く優しくたくましい子」

- ・(ひ) 人の話をしっかり「きく」ことのできる子
- ・(や) やさしく 思いやりのある子
- ・(く) くじけず 最後までがんばる子
- ・(た) たくましく 健康な子



<http://www.hyakuta.m-alps.ed.jp/>

社会科見学「地域の安全を守る」

11月4日に、3年生が地域の安全を守る仕事として、消防署と警察署の見学を行いました。普段目にするることのできない消防車や救急車、パトカーの内部施設を見せていただいたり、消防士さんや警察官の皆さんから直接お話を聞いたりすることができました。私たちの生活を守ってくれている方々の仕事に興味津々です。



児童会選挙に向けて



早いもので、今年度も後半に差し掛かっていきます。11月25日には、来年度の児童会役員を決める選挙が計画されています。特に4・5年生は、立候補者、責任者、応援者、選挙管理委員など、全員での取組となります。また、3年生はいよいよ本格的に児童会活動に参加するための一歩として、6年生は自分たちの思いを残していく活動として、やはり大切な行事となります。4・5年生は、間もなく学級・学年での取り組みが本格的に始まることでしょう。中でも5年生にとっては、いよいよ最高学年になっていくという思いを深め、大きな成長が期待される活動となります。短い期間ではありますが、ぜひ、一つ一つ、一日一日の活動の充実を期待しております。

季節を感じ、故郷を感じ…



私は市川大門町（現在の市川三郷町）の生まれで、南アルプス市に住んでから、かれこれ23年になります。こちらに来て、やはり果物がおいしく豊富なことに喜びを感じております。サクランボ、桃、李、葡萄……。そんな中でも、最も衝撃だったのがあんぽ柿です。子供のころ干し（ころ）柿は食べた記憶がありましたが、あんぽ柿については存在すら知らず、初めて口にしたのは、つい4・5年前のことで、その甘さと口どけに驚かされました。先日ひよんなことから頂き物をして口にしましたが、やはりおいしくて……。春は春で、夏は夏で、そして秋は秋、季節を感じ、故郷を感じられることは幸せなことですね。これからも、ここでの暮らしを大切にしたいと感じる一コマでした。

## 形も大事、思いも大事

「外側より中身が大事」、「形だけで身がなければだめ」などという言葉をよく耳にします。でも私は走り始めたときに、ランニングシューズにキャップ、速乾Tシャツにパンツ、サングラス、骨伝導イヤホン、ランニングウォッチ・・・レース前にはエナジーゼリーなどを買ってそろえていました（今は、タンスの奥にひっそりありますが）。大して効果は出なくても、なんだかいろいろ揃えると普段より走れそうな気がしたのも事実です。



私が子供の頃、「東映フライヤーズ」というプロ野球チームがありました（現日本ハムファイターズの前身）。あまり強くないチームだったのですが、水原茂監督になったら、めっきり力をつけ、二年目にはなんと優勝してしまったのです。

いったい水原監督は、どんなやり方で優勝したのでしょうか。今のような大型トレードなどない時代です。きっと効果的な練習方法を考えたのだと思いますが、そういう練習とは別に、水原監督はとても面白いことをしたのです。一つはユニフォームを変えたことでした。そのころとても強かったジャイアンツのユニフォームに似せ、カッコよいデザインに変えたのです。それからもう一つは、試合会場まで移動するのに使う列車を一等車という高級な座席にしたことです。もちろん、ユニフォームを変えたり一等車にしたりしたから優勝したわけではありません。でも、それまで選手たちは知らないうちに「どうせ自分たちは弱いんだ」という気持ちをもってしまっていたようです。それがジャイアンツに似たユニフォームになり、ファンからも注目されるようになりました。また一等車で移動するため、ますます注目されます。そうすると、選手たちは今までと違ってやる気が出たそうです。水原監督は、「俺たちはどうせ弱い」という選手の思いを変えるために、「形から入る」ことを実践してみたのです。やる気が出れば、もともと力のないチームではなかったもので、どんどん良い方向に向かい、ついに優勝したというわけなのです。

人は見た目でやる気が上がるということはあります。ですから、形や見た目を振り返ってみることはとても大切になるのではないのでしょうか。服装や持ち物、授業中の姿勢、明るくやる気のある表情、返事やあいさつ、言葉遣いなども一つの形です。本市では、小笠原流礼法の学習もしています。常に自分の姿を振り返って、児童とともに見直してみたいものです。



それとは別に、何かを行う時には、まず強く思うことも大切です。それは「覚悟」と言い換えてもいいかもしれません。「絶対にこれをやり遂げよう、何としてもやってみよう」、そういう覚悟があると物事は実現しやすくなります。反対に、この覚悟がないと少しの困難であきらめてしまいがちです。

パナソニックをつくった松下幸之助は商売の神様といわれるほど、商売が上手な人です。ある時たくさんのお金が必要なときに、「ダム式経営学」という話をしたそうです。会社というのは急にお金が必要になったり、急いで仕事をしなくてはならなくなったりすることがあるから、日頃からお金や人材を蓄えておかなければならないという考え方です。この話を聞いていた人たちから「自分たちはそれができないから苦労している。どうしたら資金や人材を蓄えられるのか、その方法を教えてほしい。」といわれたそうです。すると松下さんは「ダムがどうしたらできるのか自分でもよくわからないけれど、まずはダムをつくらうと強く願うことが大切である。」と答えたそうです。このように、何かをやり遂げたいと思ったら実行する前に強く思うということも大切になります。強く思うことで情報が次々と入り、ますます興味がわいて、やる気も出てくるというわけです。

形も大事、思いも大事、そして何より実行することが大事ですね。

